



徳成寺

寺はかわら版

第175号 2021年7月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

最近こんな言葉に出会いました。「このやっかいな全てが

あなたを人間にしてくれる『種』なのかもしれません」という

言葉です。今の世の中、厄介なことがたくさんありますね。コロナに

始まり、地球温暖化が引き起こす大災害や様々な格差など、数え上げれば

キリがありません。そのすべてが私たちが人間にしてくれる「種」として

見出せるでしょうか？とくに私は人間だと思っていると、これらすべては

ただの厄介ごとでしかないでしょう。しかし今与えられている状況を、厄介なもの

として生きているというだけでは、人間とは言えないのでしょうか。どんな

状況が与えられたとしても、今ここに在ることの感動と、自分自身への敬い、

そこを生き抜く情熱を持ってこそ、人々ともつながることができ、初めて

人間と名のれるのでないでしょうか。人間にしてくれる「種」になるといいですね。



-発行責任者-

住職

大山健児

土守

大山ひとみ

大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。

お参りの際にワクチンの接種状況を伺ったところ、この1~2カ月の間に予定されている方が増えてきました。今月頭に2回目を受ける予定の方に「良かったですね」と申し上げた所、「良くないですよ！お寺さんこそ早く受けるべきです！」と仰っておられました。普段お世話になっているからこそ早く受けて欲しいと言う事でした。大事に思われているありがたさを感じつつ、順番をつけなければままならない社会の切なさも同時に感じました。何が正解か分からないですが、せめて身の回りの事を大事にしていきたいなと思った次第でした。写真は結婚のお祝いにいただいた桃、その名も「はなよめ」です。粋な計らいに夫婦共々大切にされていると感じて嬉しくなりました。ありがとうございます。

